

ボランティアの心

全盲の生徒に寄り添って

横井幸雄（福祉11期、須磨区会）

企業社会での厳しい環境ではボランティアの余裕もなく、意識もなかったが今は違う。グループ〈わ〉だけでなく、多種多様なボランティア活動に積極的に参加している。

入学時に聞いた今井学長の講話とその後のボランティアの体験で意識が変わった。今井学長は、「シルバーカレッジは老人が好きに過ごす老人大学ではない。20世紀は日本を豊かにする時代であったが、21世紀は助け合う世の中を作る時代で、カレッジはこれに参画出来る人を育てることを目指している」と強調された。カリキュラムで学んだ障害者施設での体験やグループ〈わ〉での活動から得たものも多い。

ボランティア体験の一つをお話します。中学校では2年生になると「トライやるウィーク」と

して、1週間社会に出て活動体験をする行事があります。その支援を求められ盲学校に行きました。2日間、生徒さんと2人で行動を共にしましたが、彼は全盲、肢体障害、そして知的障害がありました。活動先に行く電車の中や活動先でも、ずっと手をつないでいましたが、彼の身体能力から、手の温もりしか気持ちを伝えられないように思いました。それでも彼は「あったかい」という言葉と「よっこいさーん」という名前を何度も呼んでくれて、安堵した気持ちになりました。

お昼は弁当を買って食べたが、どのようにして食べさせてあげればよいか。経験がなく、話かけながら、「たまごですよー」「お肉ですよー」と必死の思いでした。小便も一人では出来ないので、手伝いが必要でした。私にとって2日間は貴重な体験でしたが、彼にとっても、他人と行動を共にしたという得難い経験になっただろう、と思いました。そして、この子たちのためには周りの温かい支援が欠かせないと強く感じました。「再び学んで他のために」を一人が一つでも実践すれば、大きな輪になると思っています。

日本銀髪族大学歓迎



忠義国民小の子らと一緒に

KSC男声合唱団は、3月28日から5日間、総勢33人で台湾へ遠征、古都・台南市などで交流演奏会を楽しんできました。特に印象に残ったエピソードはー。

台南の名所・武徳殿（日本の重文級）での歓迎宴には、頼清徳市長も列席され、その模様は新聞、テレビでも取り上げられました。終了後、武徳殿に隣接する忠義国民小学校の児童が『日本神戸市銀髪族大学男声合唱団歓迎』のプラカードで迎えてくれ、一緒に交流演奏会を行いました。児童からは団員一人一人に手書きの氏名が書かれた演奏会案内と武徳殿が描かれたキャップのプレゼントがあり、大感激でした。

その夜の演奏会も武徳殿で、台湾茶席演奏会として開催され、演奏終了後に各テーブルに団員が分かれて同席し、お茶の接待を受けながら歓談しました。

日本と違い、茶碗は小さく（一口で飲める量）お茶の葉は煎茶に似ていて、テーブル毎にお茶を接待する若い男性、女性がいて、それを10杯位飲みました。「今晚は眠れないやろなあ」などと言いながら、日本語は通じず、台湾語は解らず、唯一、共通語は英語だけで、身振り手振りの会話で大いに盛り上がりました。演奏会も大好評？で、心のこもった温かいもてなしに、疲れも忘れる一夜となりました。

（KSC男声合唱団・小林精一）

花山梅林に収穫の歓声

花山小（北区）3年生70人が、6月6日、学校裏にある梅林で梅の実採りに挑戦。たわわに実った梅は見るからに美味しそうです。笑顔いっぱいの子どもたちは、バケツを手に「さぁとろぞ」とやる気満々。梅林のお世話役である花山梅林会会員も、嬉しくなりました。この日採った実は、ジュースやジャムにして子どもたちが試食。6月20日には、親子での甘露煮講習会も開かれます。

（広報：徳原尚世）

